

114  
A 840

極秘

譯報第九十六號

明治三十一年八月十八日

在香港 富田重報告

海軍司令部第三局

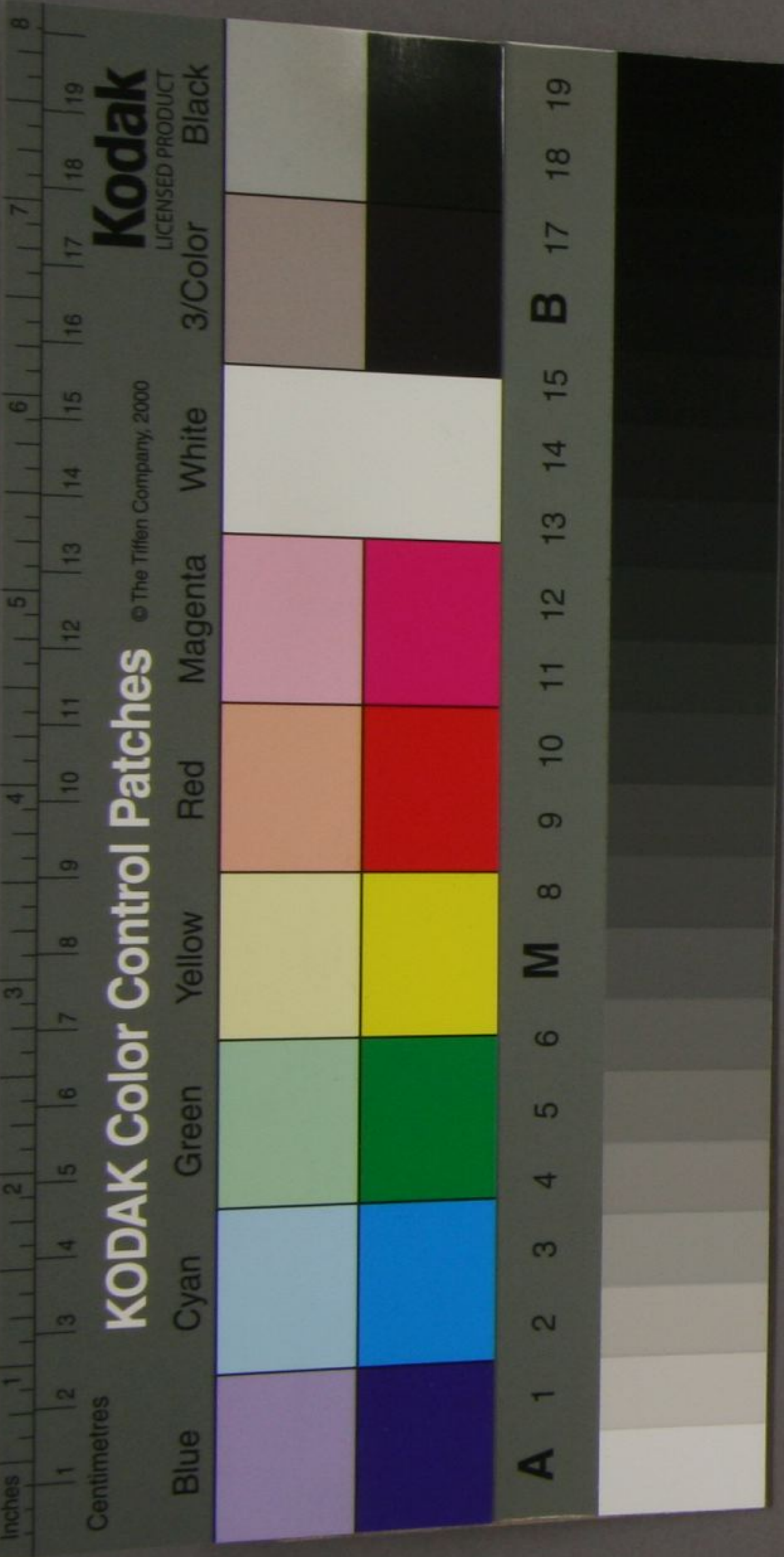
大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈

264  
5



西米兩國戰鬥余聞

八月六日米國海軍司令官「ヂュウエ」氏及陸軍總督「メトリ」氏ノ兩將ハ共ニ書ヲ裁シテ西軍ニ送り其降ヲ勸メ且ツ若シ四十八時間内ニ其降ヲ乞フナクンバ方同市ヲ砲撃スベキヲ以テセリ八月八日正午ニ至リ「マニラ」ノ返書ヲ「ヂュウエ」少將ニ致シテ其厚情ヲ謝シ且ツ該ヘテ曰ク城外既ニ反徒ノ圍ム所トアリ婦女女子ヲシテ難ヲ避ケシムルノ道アリ願フ尚ホ二十四時間ノ豫猶ヲ得ンコトヲ米將直ニ之ヲ許シタリシ其期ノ尽クルニ當リテ方「マニラ」砲撃ヲ見ルニハ諸人ノ期シテ待ツ處ナリシカ然ルニ米軍海陸兩將ノ間ニ何カ商議ヲ要スル處アリト見ヘテ之ヲ砲撃スルニ至ラス僅カニ守兵僅クシカ



ビテニ殘シテ余ハ悉クマラテニ集中シテアリ八月十二日ニ至リカビテニ殘セル  
カレコシ州第二聯隊ノ八箇小隊ヲコロホイニ尚ホ一隊ヲ「ミ」ホトノ  
ニ乗船セシメタリ以テ隊ヲマニラ市ニ上陸スルニ用意ヲナセルモノナリシ  
ヲ「ユ」少將ニ更ニ書ヲ送リテ其降ヲ勸メ一時間ヲ期シテ返書ヲ得  
ルニ於テハ我全艦隊ヲ攀ケテマニラ市砲撃ノ止ム可カラサルヲ知ラシメタリ  
十三日午前九時二十分ニ至リテ旗艦カリムロヤニ先ツ其第一彈ヲマニラ  
砲塔ニ向テ發シテ「ユ」少將ニ「ユ」少將ニ就中收容軍艦カマテ号ニ其砲  
臺下三四ヤードノ地ニ迫リテ砲撃手頗ル勤ムト云ハ西軍之ニ應ルルコト  
ナラ陸上ニ在リテマニラ市川ヲ狭ミテ兩軍稍ヤ激シク戦シモ素ヨリ有名無  
實ノ戦ニシテ西軍支フル能ハス遂ニ城中ニ退ケリ暫クシテマニラ市街頭白  
旗ヲ掲ケテ其降ヲ示セリ海上ヨリ砲撃ニ僅ニ二時間ニテ其砲塔ヲ止シ  
モカリムロヤニ「ユ」少將速射砲六十九發八月砲十六發彈丸ヲ費シタリ余艦  
費セシトモ亦之ニ準スベシ「ユ」少將其部下ノ大尉「ユ」少將ヲ送

リテ西軍ノ乞ヲ聞カシメ其降ヲ容レタリハ實ニ三時三十分ナリト云フ降  
兵大凡壹萬皆ナ携帶ノ武器ヲ没収シ軍士官以上ニ之ヲ帶フルヲ許  
シタリ

當時マニラ市ニハ「ユ」少將ノ支配スル處トナリ軍律施行セラルト云ヘ

米軍ノ死傷僅ニ死者六七人負傷者四拾名内外ナルコト

極秘

稞報第九拾九號

明治三十一年八月廿四日 在香港

富田 重報吉

海軍軍令部第三局

西米兩國戰鬪余聞

マニラ陥落當日、戰鬪ニ於テ米軍死傷ハ戰死者六七名、負傷者四十名、内外ナリト、報道アリシガ、今復々聞ク、依ニ戰死者四十六名、負傷者約一百名ニシテ、西軍ノ戰死者ハ二百余名、負傷者ハ約一百名ナリト云ク、而レテ前後兩説孰ガ確實ナルヤヲ詳ニセズ

米軍ト交徒トノ交情、山滑ナラサルモノアリ、交徒ハ武器解脫シ、上城内ニ入ルヲ許サレタリト云フ

獨艦「カイザリン」號出港

前比律賓群島總督「アウグスチン」トシテ、復業セシマテ、マニラヨリ來港セシ、獨艦「カイザリン」號ハ十八日マニラニ向ヒ出港セリ、全艦舉動ハ米國ニ對シテ、シテ狀極タルカ故ニ本港徒泊ヲ謝絶セリト、風評アリシガ、素ヨリ無根

ナルベシト云ハ  
匪ヲ英人一般意向ヲ推測スルニ足ラシカ

廣西省ノ匪徒

一時猖獗ノ勢ヲ逞ミタル廣西省ノ匪徒ノ消息ニ関シテハ其後テ見聞  
スル処ニカリシガ瓜説ニハ清國政府竊リニ金ヲ当地發刊支那新聞ニ與  
ハ匪徒ニ関スル記事ヲ掲載セシメタルモノニシテ決シテ金ヲ鎮定スルニ非  
ト云フ